

令和7年 7月17日

令和6年度 学校関係者評価委員会報告書

学校法人コア学園
秋田リハビリテーション学院
学校関係者評価委員会

◇学校関係者評価委員

委員長 宮下 正弘
秋田赤十字病院 名誉院長 介護老人保健施設 山盛苑 施設長
委員 安藤 秀明
秋田大学大学院医学系研究科 保健学専攻長
委員 佐野 元彦
株式会社 サノ・ファーマシー 代表取締役

◇学院出席者

副理事長 小林 聖敬
学院長 菅原 慶勇
学科長 ジョーンズ 佳子
専任教員 木元 裕介
事務長 石田 貞雄

◇学校関係者評価委員会

日時：令和7年6月23日（月） 午後3時～午後4時
場所：学校法人コア学園 秋田リハビリテーション学院 放送大学室

1 配付資料

- (1) 令和6年（2024年）度 自己評価報告書
- (2) 令和6年（2024年）度 自己評価報告書 参考資料
 - ①学則・シラバス
 - ②年度ごと学生募集状況
 - ③ハラスメントの防止及び対応に関する規程 他
- (3) 令和6年（2024年）度 学生による授業評価報告書
- (4) 学校関係者評価委員会設置要綱
- (5) 学校案内・学生募集要項
- (6) 令和7年（2025年）度 オープンキャンパス案内チラシ
- (7) 学院インスタグラム QRコード 記載チラシ

2 学校からの説明

(1) 令和6年(2024年)度 自己評価報告について

- ①今回の自己評価報告書は、昨年度いただいた「具体的な達成度は、定量化できる数値とした方が良いのでは？」という委員からの御意見を参考に、一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構が求める判定基準に沿って自己評価していること。
- ②25項目の判定基準については、評価一覧表のとおり基準を満たしているか否かにより、1～4の評価としていること。
- ③基準Ⅰ－1 教育理念・目標・方針をはじめとする、主な評価基準について、評価点、評価結果の理由及び評価結果における対応を事務局が報告した。

(2) 令和6年(2024年)度 学生による授業評価報告について

- ①令和6年度に新しく授業評価計画を立案し、授業評価をより良い授業運営に活用するため、学生の記憶が新鮮な時期に行うこととしたこと。
- ②先行して行った学内教員の担当科目から実施し、極力講義最終日に一斉に対面で実施した集計であること。
- ③評価結果について、1年次から3年次の各科目の評価項目に従い結果を報告した。

3 委員からの主なコメントと回答

<自己評価報告>

(1) 基準Ⅰ－1 教育理念・目標・方針

- ①アセスメントポリシーについては、単体として整備すべきものと思う。
- ②教育理念等は学生だけでなく、家族にも周知して学生指導の援助を仰ぐのが良いのではないか。
- ③関連して、基準Ⅳ－6 成績評価 はアセスメントポリシーが未整備であるため、評価3が適当である。

<回答>

- ・アセスメントポリシーは、学習成果を評価するための重要な方針であり早急に整備公表する他、基準Ⅳ－6 成績評価の評価は3に修正する。
- ・学生の修学状況等については、引き続き家族と共有し連携を図りながら対応してまいりたい。

(2) 基準Ⅱ－2 教員の要件

- 専任教員の指定規則における教育学単位取得状況はどのようなになっているか。
- 3年前の指定規則改正後に着任した専任教員は、単位取得状況を満たしている旨を明記した方が適切である。

<回答>

- ・今後、評価結果理由欄に教育学に関する科目を修得している旨を明記したい。

(3) 基準Ⅲ－1 ハラスメント防止対策

- ハラスメントの規程は添付されているが、研修会の実施や周知啓発の実績として根拠となる資料を添付すべきである。

<回答>

- ・今後、根拠資料として添付する。

(4) 基準Ⅳ－4 教育内容

○多職種連携共同学習授業は非常に良い取り組みであり評価できる。次年度に向けて、職種を増やすなどの構想があるのか。

<回答>

- ・今年度は看護師養成学校、栄養士養成学校との連携授業を行っている。次年度からは、MSW(医療ソーシャルワーカー)や歯科衛生士養成校への声掛けを検討している。

(5) 基準Ⅴ－1 教育成果

①学業達成率が80%であることの評価方法については、計算方法が異なっている。

再計算式を参考に再計算が必要である。計算式の資料をお渡しする。

②新卒者の国家試験合格率は、実態としては低い合格率ではなく、教員の個別指導等が功を奏していると思われる。全国新卒合格率を下回っている評価であるため、評価3が適当である。

<回答>

- ・評価を4→3に修正する。
- ・今後は、「標準修業年限内の卒業(修了)率」を算出し判定基準とする。

(6) 基準Ⅶ－1 内部質調査

○学科全体のPDCAサイクルの確立と活用が図られている理由に、学科会議や教職員会議における課題解決策の提案等を理由にするのであれば、議事録を添付した方が適切かと思う。

<回答>

- ・今後、根拠資料として添付する。

<授業評価報告>

(1) シラバスにおいて、各講義がディプロマポリシーのどの項目に該当するのか明記する必要がある。授業評価時においても、ディプロマポリシーのどの項目に該当する評価であるか明記する必要がある。

<回答>

- ・実例を調査して対応したい。

(2) 学生は演習中心の科目に評価が偏るが、知識を蓄える講義は国家試験において重要となる。座学中心の科目は、その目的や意義を、授業開始時だけでなく、繰り返し繰り返し指導することが必要である。

<配付資料等から>

(1) インスタグラム広告を活用した学生募集について、若者に周知効果の高いツールを活用した手法である。誰が担当しているのか。ある大学では「大学広め隊」という学生組織があってインスタを発信しているよう。愛校心の醸成に有効であると感じている。

<回答>

- ・インスタグラム広告は主に事務部職員が担当している。
- ・現在、学生ブログをHP上で発信している。充実させていきたい。

(2) 開学から10年が経過し、学校運営をはじめ色々なところで充実してきていると感じる。

授業評価については、学生のフレッシュな声が聞け、この取り組みは評価できる。

(3) 同窓会組織が設立されたとのこと。どのような活動をしているのか。

卒業生の交流の場として、しっかりと進めて頂きたい。

<回答>

- ・ 同窓会は令和6年度に設立された。在学生に向けて「PTになって良かったこと」と題した講演を3人の同窓生が行うなど、好評であった。
引き続き進めていきたい。